

令和七年第一回臨時会 冒頭あいさつ

おはようございます。

本日ここに、令和七年浦安市議会第一回臨時会が開催されるにあたり、議員の皆様には全員のご出席をいただき、ありがとうございます。

臨時会の冒頭の貴重なお時間をいただき、私の市政運営に対する所信の一端を申し上げ、議員並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

このたびの市長選挙におきまして、市民の皆様からのご負託をいただき、三期目の市政運営を担うこととなりました。

引き続き四年間、まちづくりの舵取りを担わせていただくことの職責の重さに、改めて身の引き締まる思いであります。

人口減少・少子高齢化、激甚化する自然災害、さらには急速なデジタル化など、私たちを取り巻く環境は、時代の流れとともに様々に変化してきております。

そのような中、すべての市民の幸せと、「ふるさと浦安」のさらなる発展を実現していくため、想定される災害などのリスクに備えながら、時代の趨勢を敏感に捉え、市民の暮らしを確かに支える基盤を確立してまいります。

そして、市民の皆様が日々を安心し、誇りと愛着を持って暮らせるまちを創るため、強い決意と使命感を持って、三期目の市政運営に取り組んでまいります。

それでは、今後のまちづくりに向けた私の考え方を述べさせていただきます。

まちづくりに求められるのは、完成された「かたち」を目指すことではありません。

将来の予測が困難な今だからこそ、重要なのは、あらゆる変化にしなやかに

対応できる、有意な「余白」を、まちの中にしっかりと持つことだと、私は考えております。

その「余白」が、多様な行政需要や新たな挑戦の芽を受け止める土壌となり、将来の可能性を広げます。

成熟期を迎え、空間的な余地が少ない本市においては、数少ない機会をのがすことなく、いつ発生するかわからない大規模災害や、今後想定される住宅・インフラの更新工事に対応できる「余白」を確保していかななくてはなりません。

「大江戸温泉物語浦安万華郷跡地」利用につきましては、この考えに基づいた取り組みの一つであり、平時は暫定的にスポーツ施設等として、一方、有事の際は災害対策用地として活用するなど、将来に備えたまちづくりを行ってまいります。

昭和五十年代から建設されてきた住宅が、これから一斉に老朽化の時期を迎えようとしていることから、良好な住環境を維持・向上するため、これまでも、まちのリノベーションに向けた多角的な支援策を講じてまいりました。

一方、まちの活力の維持と、持続的な発展を実現するためには、単なる建物の「維持」や「修繕」だけではなく、まち全体のあり方である都市計画を、時代や市民のニーズとともに最適なものへと更新していかなければなりません。

まち全体を長期的かつ計画的な目線で捉え、ハード施策とソフト施策の両立を図り、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。

市政運営においては、国や県、関係事業者などとの連携が欠かせません。

公共交通や、大規模災害への備えなど、広域的な視点が求められる課題に対しては、自治体の枠を越えた強固な協力関係を築き上げることが不可欠であります。

また、市単独では解決が困難な課題に対しては、担うべき主体と交渉し、解決に導いていかなければなりません。

私自身、舞浜連結路の県への移管や、旧第一期護岸の無償借用など、これまで、関係各所との困難な交渉も、真正面から取り組み、乗り越えてまいりました。

京葉線・りんかい線の羽田空港直通運転や、境川河口部への排水機場・水門の設置、宿泊税の導入など、解決すべき課題は山積しております。

今後も、これまで築き上げた信頼関係を最大限に活かし、様々な主体と手を取り合い、時には粘り強く交渉し、市民の暮らしを最優先に、より良い結果を引き出すため、全力を尽くしてまいります。

私が掲げるまちの姿、それは「やさしく強いまち」です。

生活を支えるための、強靱なインフラや防災体制が備わっている強いまちにこそ、市民の笑顔や安らぎが生まれ、お互いが「やさしさ」でつながり、そのつながりによって、地域を守る力がさらに強固なものとなります。

このような、強さとやさしさが連鎖するまちこそが、時代の変化やどのような困難も乗り越えることができるまちであると、私は確信しており、すべての市民の力を結集し、「オール浦安」で邁進してまいります。

以上の考えのもと、総合計画の将来都市像「人が輝き躍動するまち浦安～すべての市民の幸せのために～」の実現に向け、引き続き力強く取り組んでまいりますので、議員並びに市民の皆様には、今後ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年5月16日
浦安市長 内 田 悦 嗣